

多様な区民の意見やニーズを区政に反映する仕組み（案）  
～区政会議の再構築（スクラップ・アンド・ビルド）～

天王寺区長 水谷翔太

自律した自治体型の区政運営の実現に向け、区内の基礎自治に関する施策や事業について、地域の事情・特性に即して総合的に展開するとともに、その成果を区民が評価し、施策や事業の改善や新たな展開につなげていくシステムを確立することが必要である。

そのために、多様な区民の意見やニーズを的確に把握するとともに、区民による評価のもと区域内の行政を区長の決定により実施する仕組みづくりを構築しなければならない。

こうしたことから、これまでの区政会議の課題等を踏まえ、**区政会議を再構築し、新たに二会制を導入するとともに、従来の区民モニターをより強化し、区政評価員と位置付け、区の事務事業評価を実施するほか、新たに「(仮称) 戸別訪問型民意集約チーム」を発足させ、サイレント・マジョリティなどを含めた多様な区民のニーズを把握していく。**

多様な区民の意見やニーズを区政に反映する  
仕組み（イメージ）



## 「(仮称) 区政有識者会議」と「(仮称) 区政評価戦略会議」について

### (1) 二会制の導入

天王寺区における区政会議は、各委員に主体的に議論へ参加をしていただくため、**区内で公益活動を行う団体の役員から構成される「(仮称) 区政有識者会議」と公募委員から構成される「(仮称) 区政評価戦略会議」に再構築**する。

### (2) 会議の目的

両会議では、**区政運営にかかる方針や区において実施される事務事業について、その策定に当たって委員から意見をいただき、事業実施後に評価をいただく。**

また、区の区域内の基礎自治に関する施策や事業など、区政運営について計画段階から委員の意見をいただくために、**事業実施後の評価だけでなく今後の施策・事業の方向性等についても議論**していく。

なお、重要事項については、両会議の合同会議を開催し、議論していくこともある。

### (3) 委員の役割

両会議において委員は、自ら主体的に議論に参加する責任を自覚していただき、区役所からの提案に対して、委員相互の議論を尽くすようお願いしたい。

### (4) 区役所の役割

委員の意見に対して、**区役所は検討を行い、可能なものは施策・事業の企画・立案から実施に渡る意思決定に反映**していくとともに、**反映状況を明確**にしなければならない。

また、**委員の意見に対して反映できなかったものに対しても、その理由を付して示さなければならない。**

## 2. 「(仮称) 区政有識者会議」と「(仮称) 区政評価戦略会議」の体制等について

### (1) 委員の選任

「(仮称) 区政有識者会議」の委員は、区内で公益活動を行う団体の役員から、「(仮称) 区政評価戦略会議」の委員は公募委員に応募された方から区長が委嘱する。

なお、現行の5名の公募委員の方は、(仮称) 区政評価戦略会議に属することとするが、**より幅広い年齢層からの多様な意見をいただくために、さらに、公募委員の追加募集(10名程度)**を行う。

### (2) 会議の運営

両会議にはそれぞれ議長を置くこととし、議長は委員の互選により定める。また、議長は会議の議事を進行する。

議長は、あらかじめ副議長を指名する。

なお、区長は、必要があると認めるときは、会議に関係者の出席を求めることができる。

### (3) 傍聴等について

傍聴の定員は20名とする。ただし区長が認めるときはこの限りではない。また、**区長が認める時は傍聴者は発言を行うことができる。**

#### (参考)

#### 1. 区民モニター（区政評価員）について

区政に関する様々な意見等を区の施策・事業に反映させるとともに、区政について評価する仕組みとしては、上記のとおり「(仮称) 区政有識者会議」と「(仮称) 区政評価戦略会議」により対応していくが、より多くのサイレント・マジョリティなどの表面化しにくいものも含めた多様な区民の意見やニーズを的確かつ着実に把握し、区の施策・事業に反映させる必要がある。

こうしたことから、これまで、区民モニター制度により、天王寺区の事業や取り組みに対して、ご意見やご提案をいただいていたが、こうした取組をより一層強化し、今後は、「区民モニター」を「区政評価員」として位置付け、区の事務事業に対して評価をいただき、意見や提案をいただく。

#### 2. (仮称) 戸別訪問型民意集約チームによる戸別訪問について

区政運営にかかる意見や評価をいただくために、区役所職員から構成される(仮称) 戸別訪問型民意集約チームのメンバーが中心となって、戸別訪問を行い、区民と直接対話を行うことで、区民モニター（区政評価員）でも捕捉できない区政への関心の薄い、サイレント・マジョリティの意見やニーズを的確かつ着実に把握する。